

海老名エコ・パークアンド ライドシンポジウム^{3月25日}開催

エコ・パークアンドライド推進協議会(国土交通省・神奈川県・海老名市)では、「海老名エコ・パークアンドライドシンポジウム」を開催します。

これは、市内事業所と市民が共同で電気自動車を利用して、環境にやさしい新たなシステムづくりを目指す「海老名エコ・パークアンドライド社会実験」の概要説明を行うものです。システムに参加している市民や事業者の方などによるパネルディスカッションもを行います。

なお当日は、実験車の試乗ができます。ぜひご参加ください。

▽日時 3月25日(日)午後1時30分～3時30分
▽会場 市役所401会議室
▽内容 「本当に便利?エコ・パークアンドライドでの通勤」
①実験概要説明 ②パネルディスカッションコーディネーター：中村文彦氏(横浜国立大学工学部助教授)、パネリスト：市民モニター代表、事業所モニター代表、実験主体代表 ③実験車試乗
▽入場料 無料
▽申込 3月23日(金)までに電話または直接都市計画課へ。
▽問い合わせ 同課(内614)。

青少年会館で「春の子どもまつり」

3月27日・春休み楽しい体験

制作するバクバクブーチャン

青少年会館では、「春の子どもまつり」を開催します。内容は、ウレタン人形の制作と上演です。また、午後からは人形劇サークルによる公演も行われます。春



休みの1日、楽しい体験をしてみませんか。

▽日時 3月27日(火)午前9時～午後3時30分
▽会場 青少年会館
▽対象 市内小学生50人
▽内容 午前の部：ウレタン人形(バクバクブーチャン)の制作と上演、午後の部：人形劇観賞 ※午後の部は申し込み不要
▽持ち物 お弁当、水筒、お手ふき、はさみ、筆記用具。
▽申込 電話または直接青少年会館へ。
▽問い合わせ 同会館(☎231・9787)月曜休館。

休みの1日、楽しい体験をしてみませんか。

▽日時 3月27日(火)午前9時～午後3時30分
▽会場 青少年会館
▽対象 市内小学生50人
▽内容 午前の部：ウレタン人形(バクバクブーチャン)の制作と上演、午後の部：人形劇観賞 ※午後の部は申し込み不要
▽持ち物 お弁当、水筒、お手ふき、はさみ、筆記用具。
▽申込 電話または直接青少年会館へ。
▽問い合わせ 同会館(☎231・9787)月曜休館。

海老名むかしはなし

「店で用意した手振るい用具で、最初はガラという大きめの石をはねのけ、八分(約二・七センチ)一寸(約四センチ)の砂利に振るい分けた。作業は昼休みを除き朝八時から夕四時まで、仕事をはじめて体がぬくもってくると、上半身は寒中ではだかになるほどの重労働で、中には半



④上浜田遺跡出土の耳飾



⑦杉久保遺跡出土の土器

10日から県指定重要文化財 耳飾も展示

上浜田遺跡(浜田町)の墓から出土した石製の耳飾が、先月県指定重要文化財になりました。縄文時代の装身具には石を磨いて作られたものが多くあります

温故館特別展開催にあわせて、縄文時代をテーマに2人の講師を迎えて考古学講座を開催します。内容は、上浜田遺跡出土の耳飾を含め、縄文時代の装身具についての解説と、縄文土器の文様の意味について解釈を試みるものです。特別展とあわせて、縄文時代についてより深く学んでみませんか。

▽プログラム 第一部：「縄文時代の装身具」講師 恩田勇氏(神奈川県教育委員会、第2部)：「縄文土器というキャンパス」講師 林克彦氏(青山学院大学助手)

▽日時 3月17日(土) 第一部：午後1時～3時、第二部：午後3時～5時
▽会場 市役所401会議室
▽対象 高校生以上
▽募集人数 先着100人(第一部、第二部のみの参加可)
▽申込 電話または直接温故館へ。
▽問い合わせ 同課(内684)。



産川遺跡、土器出土の様子

縄文時代は今から約1万2000～1万3000年前、土器の発明で幕を開けます。縄文時代は土器の形や文様のつけ方で草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6時期に区分され、おおよそ水田耕作が始まるころまでの約1万年の間をいいます。市内では縄文時代すべての時期の遺跡が発掘調査によって確認され、土器や石器など多数の遺物が出土しています。

縄文時代になると気候が温暖になり、同時代前期には相模川の川幅が広く、海老名の南部まで入り江になっていたようです。

今回の特別展では、市内の縄文時代の遺跡から出土した土器や装飾品など、優れた資料を一室に集め、最新の発掘調査成果も交えて紹介します。

一口に縄文土器といっても、その形や文様のつけ方は多種多様で、時期や地域によって異なります。形や装飾は、草創期や早期は簡単なものがほとんどですが、前期からはいろいろな文様が現れ始めます。中期には土器の形も増え、取っ手をつけるなど華やかで変化に富んだ装飾がされます。後期になると小型の土器も加わりますが、丁寧に作られるものと粗く作られるものに分かれていきます。

今回の展示では、それぞれの時期の美しい装飾が施された土器を展示しますので、じっくりとご覧ください。



上今泉中原遺跡、堅穴住居跡

文化財セミナー 「縄文時代をテーマに」

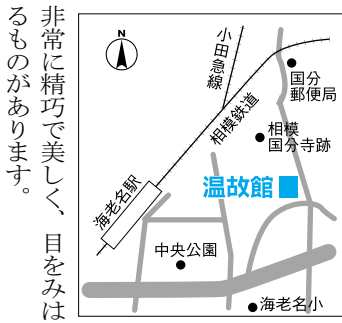
考古学講座受講者を募集

3月6日↓25日温故館で

海老名の縄文時代遺跡から

縄文の美 特別展

温故館では「縄文の美」海老名の縄文時代遺跡から」と題し、3月6日(火)から25日(日)まで特別展を開催します。



発掘された杉久保遺跡では、住居が何回も立て替えられた痕跡があり、集落の中央の広場からは、貯蔵用の穴や墓が見つっています。

しかし晩期になると集落は減り、やがてほとんど人が住まなくなってしまうようです。

温故館特別展開催にあわせて、縄文時代をテーマに2人の講師を迎えて考古学講座を開催します。内容は、上浜田遺跡出土の耳飾を含め、縄文時代の装身具についての解説と、縄文土器の文様の意味について解釈を試みるものです。特別展とあわせて、縄文時代についてより深く学んでみませんか。

▽プログラム 第一部：「縄文時代の装身具」講師 恩田勇氏(神奈川県教育委員会、第2部)：「縄文土器というキャンパス」講師 林克彦氏(青山学院大学助手)

▽日時 3月17日(土) 第一部：午後1時～3時、第二部：午後3時～5時
▽会場 市役所401会議室
▽対象 高校生以上
▽募集人数 先着100人(第一部、第二部のみの参加可)
▽申込 電話または直接温故館へ。
▽問い合わせ 同課(内684)。

郷土の里うた・里ことばなど(丸)

第465話 「船頭小唄」の替え唄

大正十一年ごろからうたわれたし、翌十二年に入ると非常に勢いで流行した、野口雨情作詞・中山晋平作曲の「船頭小唄」、別名「枯れすすきの歌」。この替え唄が、「砂利振るい」という歌となって郷土に発生したのである。枯れすすきの原作を口ずさまれた方ももう大分少なくなってきたと思われるので、まずこの歌の歌詞を掲げてみよう。

おれは河原の枯れすすき
おなじお前も枯れすすき
どうせ二人はこの世では
花の咲かない枯れすすき

死ぬも生きるもねえお前
水の流れに何変わる
おれもお前も利根川の
船の船頭で暮らそうよ

(以下略)

分かりやすい歌詞、加えて哀調を帯びたうたいやすい曲で、それが受けたが大流行したという記憶がある。これに対し、替え唄というのは

おれは河原の砂利振るい
おなじお前も砂利振るい
どうせ二人はこの世では
花の咲かない砂利振るい

死ぬも生きるもねえお前
水の流れに何変わる
おれもお前も相模川の
砂利を振るって暮らそうよ

というもので、宴席などでも歌われた。

その「砂利振るい」というのは、木の丸太を三脚に組み立て、金網を張った箱通しをそれに吊し、シャベルで河原の砂利砂の混ざっているものをすくい入れ、箱通しの握りを持って前後に動かし、砂利と砂に選別する作業をいうのであるが、歌ではその仕事に従事する人そのものを指しているのである。この替え唄は誰の発想によるのだろうか。「おれは」に始まるから、案外当事者の中の機知に富んだ人なのかも知れない。

昭和十二、三年ごろ砂利振るいを経験された、私の懇意な上今泉の方の話であるが、「河原口に本多という砂利店があって、地区の人五、六人と農閑期によくそこへ働きに行つた。やや早起きをし、八寸の重箱に一杯つめた弁当を持って、三ヶ余の道を急いだ。砂利採取場所は相模川、中津川、小鮎川の三川が合流する、河原口側の河原であった」。

「店で用意した手振るい用具で、最初はガラという大きめの石をはねのけ、八分(約二・七センチ)一寸(約四センチ)の砂利に振るい分けた。作業は昼休みを除き朝八時から夕四時まで、仕事をはじめて体がぬくもってくると、上半身は寒中ではだかになるほどの重労働で、中には半